

## 凡例

- 一 本書は、『徳島市史』全6巻のうち、第六巻として、戦争編・治安編・災害編を収めたものである。
- 一 記述は平易を心がけ、原則として常用漢字・現代かなづかいを用いた。ただし、固有名詞、歴史的用語などについては、必ずしもこの原則によっていない。
- 一 人名の敬称は原則として省略し、頻出する機関名等については略称で表すことがある。  
(例 徳島新聞→徳新、国文学研究資料館→国文研、徳島県立博物館→県立博物館、徳島県立文書館→県立文書館、徳島県立図書館→県立図書館)
- 一 地名は、適宜( )書きで現行地名を併記した。
- 一 難解な語句には、必要に応じてふりがなを付した。
- 一 本文中の写真・図・表にはそれぞれ一連番号を付し、巻末に一覧を掲げた。
- 一 文献等の引用が短文の場合は「」を付し、長文の場合は改行して2字下げとした。
- 一 引用史料・文献で、刊行されている著書・編書には『』を、原文書・論文名などには「」を付した。
- 一 なお、本書でいう「蜂須賀家文書」とは、国文学研究資料館所蔵の蜂須賀家関係資料を指す。
- 一 本書では元号を用い、適宜西暦年を( )内にしるした。
- 一 本文記述に関連する史料の一部は、巻末史料編に収めている。
- 一 本文中に差別的用語や表記を使用している場合もあるが、これは史実に基づく客観的な歴史理解に資するためのものであり、これらの差別を容認するものではない。

# 目 次

# 戦争編

## 第一章 古代・中世阿波の戦乱

### 第一節 古代の軍事と戦乱

1 古代の軍事制度

2 海賊の横行

3 武士団の誕生と活動

4 源平の合戦と阿波

### 第二節 武家政権と戦乱

1 承久の乱と守護佐々木氏

2 南北朝の内乱と守護細川氏

### 第三節 戦国の争乱

1 阿波守護細川家と三好氏

2 阿波三好家の落日

## 第二章 近世大名蜂須賀氏の合戦と軍制

### 第一節 蜂須賀家の軍役

1 秀吉の四国攻めと国分

2 秀吉の家政居城と四支城残置指示

3 土豪一揆と阿波九城

4 秀吉の天下統一から朝鮮出兵

5 関ヶ原合戦と蜂須賀家

6 大坂の陣と淡路加増

7 広島城の請取

第二節 徳島藩の軍事力……………58

1 軍役と備え……………2

3 森水軍から徳島藩水軍へ……………4

5 夫役と水主役・安宅役……………

第三節 異国船と海岸防備体制……………76

1 海部郡への異国船漂着……………2

3 武術改めと勸諭策……………

第四節 幕末の軍制改革と戊辰戦争……………88

1 黒船来航による江戸湾防備……………2

3 蜂須賀斉裕の軍制改革……………4

5 戊辰戦争への出兵……………

第三章 近代国家の軍隊と徳島

第一節 徳島藩から名東県・徳島県へ……………107

1 禄制改革と版籍奉還……………2

3 廃藩置県……………4

第二節 歩兵第12連隊の編成……………116

1 歩兵第12連隊と西南戦争……………2

3 民衆の徴兵除け・弾丸除け……………

第三節	歩兵第43連隊の編成	123
-----	------------	-----

- |   |              |   |
|---|--------------|---|
| 1 | 歩兵第43連隊と日露戦争 | 2 |
| 2 | 戦捷記念事業の展開    |   |
| 3 | 徳島公園の建設      | 4 |
| 4 | 招魂碑と護国神社     |   |

第四節	歩兵第62連隊の加茂名村誘致	138
-----	----------------	-----

- |   |                   |   |
|---|-------------------|---|
| 1 | 第1次世界大戦と大戦景気      | 2 |
| 2 | 徳島俘虜收容所と市民の交流     |   |
| 3 | シベリア出兵            | 4 |
| 4 | 第62連隊の廃止と第43連隊の移駐 |   |

第五節	軍関係の組織・団体	149
-----	-----------	-----

- |   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 軍関係機関・施設の設定 | 2 |
| 2 | 日本赤十字社      |   |
| 3 | 愛国婦人会       | 4 |
| 4 | 在郷軍人会       |   |

#### 第四章 十五年戦争と徳島の連隊

第一節	戦争と兵士	161
-----	-------	-----

- |   |         |   |
|---|---------|---|
| 1 | 十五年戦争   | 2 |
| 2 | 郷土の兵士たち |   |

第二節	徳島の連隊・大隊と航空隊	178
-----	--------------	-----

- |   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 歩兵第43連隊     | 2 |
| 2 | 歩兵第62連隊第2大隊 |   |
| 3 | 歩兵第235連隊    | 4 |
| 4 | 歩兵第143連隊    |   |
| 5 | 二つの独立歩兵大隊   | 6 |
| 6 | 和田島・松茂の航空隊  |   |

## 第五章 日中戦争・アジア太平洋戦争と徳島市

### 第一節 総力戦体制下の市役所 …………… 208

1 総力戦体制 …………… 2 兵事戸籍課

3 社会課・厚生課 …………… 4 精動課・振興課

5 物資課・生活必需品課

### 第二節 戦争と市民の暮らし …………… 253

1 町内会と隣組 …………… 2 官製団体と市民

3 戦争と女性

### 第三節 戦争と学校 …………… 279

1 国民学校と「少国民」 …………… 2 「軍神」梅林大尉

3 工業学校の学徒勤労働員

## 第六章 本土決戦と空襲

### 第一節 四国防衛と郷土部隊 …………… 292

1 本土決戦体制 …………… 2 四国防衛と第55軍

3 歩兵第450連隊 …………… 4 第121独立混成旅団

5 歩兵第43連隊 …………… 6 国民義勇戦闘隊

### 第二節 徳島の空襲 …………… 305

1 横穴式待避壕 …………… 2 徳島市域の空襲

3 徳島大空襲

4 戦争が語るもの

## 第七章 占領と徳島市

### 第一節 連合国軍の徳島駐留

1 占領と徳島駐留

2 軍政部・民間情報教育部

326

### 第二節 徳島市の戦後復興

1 焼け跡からの再生

2 復員と引揚げ

334

3 教育の復興

## 第八章 再軍備と「平和都市」徳島市

### 第一節 戦争放棄と再軍備

1 新憲法と朝鮮戦争

2 東西冷戦と保安隊・自衛隊

353

### 第二節 「平和都市」徳島市

1 徳島市の取り組み

2 戦争遺産と平和教育  
↳ 高校生と戦争を考える ↳

365

# 治安編

## 第一章 古代・中世阿波の治安

### 第一節 国司・郡司から守護・地頭へ

1 律令国家と治安

2 律令制度の崩壊と治安

381

3 鎌倉幕府の治安対策

4 室町幕府の治安対策

### 第二節 戦国大名三好氏と新加制式

1 制定に至る経緯

2 新加制式の内容

388

3 三好氏統治下の阿波

## 第二章 徳島藩と治安

### 第一節 藩の祖法にみる治安体制

1 「御壁書」と「裏書」

2 家臣団統制

395

3 武家奉公人対策

4 領国支配

### 第二節 城下町の治安制度

1 治安施設

2 治安組織

406

3 捜査の実態

### 第三節 領国の治安と警備

415



1	博奕・盆踊り・盗難	2	通行手形と遍路
3	キリシタンの取締り		
第四節	城下町・村浦の生活と治安		432
1	百姓・町人の「出入り」と「内済」	2	興行と遊興地
第五節	藩政改革と地方支配の再建		441
1	藩政改革の展開	2	「郡代報告書」にみる村浦の社会状況
第六節	民衆運動の展開		449
1	徳島藩の百姓一揆	2	五社宮一揆
3	上郡一揆	4	阿波の「ええじゃないか」
第三章	明治・大正・昭和前期の治安と警察		
第一節	徳島藩から名東県へ		465
1	民政奉行・刑法奉行から聴訟課へ	2	自由民権運動と通諭書事件
第二節	徳島県の警察と監獄署・裁判所		471
1	警察組織	2	監獄署・刑務所と裁判所
第三節	市民生活の安全		475
1	衛生警察と伝染病対策	2	歓楽街と風俗
第四節	大正デモクラシーと社会運動の高揚		490
1	大正デモクラシー	2	社会運動の高揚

3	治安維持法と特別高等警察	
第五節	アジア太平洋戦争と警察	504

1	戦時下の市民生活と警察	2	陪審員裁判の実施
第六節	徳島大空襲と警察・刑務所		

1	徳島大空襲	2	空襲後の徳島市
---	-------	---	---------

#### 第四章 占領時代の治安と警察

第一節	戦後の混乱と市民生活	515
-----	------------	-----

1	連合国軍の進駐	2	ヤミ市
3	大衆娯楽の復活	4	戦後混乱期の犯罪と警察

第二節	警察権の分権化と民主化	526
-----	-------------	-----

1	徳島市警察の誕生	2	国家地方警察
3	警察の職務範囲	4	司法の民主化

#### 第五章 高度経済成長期の治安と警察

第一節	徳島県警察の発足	540
-----	----------	-----

1	新警察法の施行	2	歓楽街の浄化
3	青少年の非行防止	4	交通戦争
5	市民運動の高揚		

第二節 刑務所と裁判 ..... 559

1 徳島刑務所 ..... 2 裁判

第六章 平成の治安と警察

第一節 社会の多様化と警察 ..... 568

1 犯罪弱者の保護 ..... 2 安心安全な町づくり

第二節 司法制度改革 ..... 575

1 市民目線の裁判 ..... 2 公正公平な裁判

3 被害者支援・証人保護 ..... 4 犯罪者の処遇

5 新しい捜査手法

災害編

第一章 古代・中世阿波の災害

第一節 古代の災害と開発 ..... 583

1 古代の災害 ..... 2 吉野川下流域の開発と東大寺領荘園

第二節 中世の災害と開発……………587

1 吉野川の水害と三角州の開発……………2

3 南助任保の開発と富田荘……………4

第三節 風水害・地震・津波……………596

1 風水害……………2

第二章 徳島藩と災害

第一節 徳島藩の治水と消防……………603

1 築城と城下町の治水……………2

3 徳島藩の消防制度……………2

第二節 新田開発の進展と治水……………620

1 川内地区の開発と豪商農……………2

第三節 天保飢饉と困窮人救済……………637

1 天保飢饉……………2

第四節 火災・海難……………647

1 江戸時代の火災……………2

3 別宮浦の火災……………4

第五節 風水害・干害……………654

1 徳島の風水害・干害……………2

2 史料にみる風水害・干害……………2

第六節	地震・津波	3	万延元年と慶応2年の大水害		
	1	徳島の地震・津波	2	慶長の地震・津波	
	3	宝永の地震・津波	4	寛政の地震	
	5	安政の地震・津波と城下町の火災			
					664

### 第三章 明治・大正・昭和前期の消防

第一節	明治の消防	676		
-----	-------	-----	--	--

	1	明治維新前後の消防組織	2	出火消防規則	
	3	公設消防組の成立			
第二節	消防組頭 市川利喜蔵	683			
	1	「義組」の創設	2	「義組」解散後の利喜蔵	
	3	消防組と祝儀問題			

第三節	大正・昭和前期の消防	691		
-----	------------	-----	--	--

	1	公設消防組の発展	2	新しい消防組	
	3	火災告知と警鐘台	4	ポンプ導入と増設問題	
	5	常備消防の設置	6	消防手を取巻く環境整備	
	7	慰霊塔の建設			

第四節 明治・大正・昭和前期の火災……………710

1 火災発生状況……………2  
特筆すべき火災……………2

第五節 アジア太平洋戦争と消防……………718

1 防空法と防護団……………2  
警防団の設立……………2

3 徳島大空襲と警防団……………

第四章 明治・大正・昭和前期の災害と防災

第一節 徳島市の治水……………726

1 明治前期の治水の動向……………2  
吉野川第一期改修工事……………2

3 昭和前期の治水……………

第二節 風水害・干害・海難……………748

1 風水害……………2  
干害・海難事故……………2

第五章 昭和後期・平成の消防

第一節 自治体消防の発足と発展……………758

1 自治体消防の成立……………2  
消防本部・消防署・出張所の設置……………2

3 分遣所の設置……………4  
徳島市消防団の成立……………4

5 水上消防団の設置……………6  
消防装備の充実・発展……………6

7 訓練機関の設置……………8  
戦後の主な火災……………8

第二節 現代の消防……………776

1 今日の消防組織と消防力……………2

3 救急業務の増加……………4

5 緊急消防援助隊の派遣……………6

第六章 昭和後期・平成の災害と防災……………788

第一節 徳島市の防災……………788

1 吉野川第二期改修工事……………2

3 地域防災計画の策定……………2

第二節 風水害・干害・海難……………805

1 戦後の風水害……………2

3 戦後の海難事故……………2

第三節 地震・津波……………819

1 昭和南海地震……………2

3 阪神・淡路大震災……………4

第七章 巨大地震への備え……………827

第一節 災害遺構と文化財の保存……………827

1 遺跡にみる地震痕跡……………2

2 地震・津波にかかわる遺構と伝承……………2

3	洪水にかかわる遺構と伝承	4	「歴史資料ネットワーク・徳島」の設立
第二節 防災・減災への取り組み			

- |   |                |   |               |
|---|----------------|---|---------------|
| 1 | 南海トラフと中央構造線断層帯 | 2 | 防災マップの作成      |
| 3 | 避難場所の指定        | 4 | 防災訓練の実施       |
| 5 | 防災ラジオの普及       | 6 | 自主防災組織の育成     |
| 7 | 津田中学校の取り組み     | 8 | 徳島市立高等学校の取り組み |

史料編	859
-----	-----

年表編	31
参考文献一覧	15
写真・図・表一覧	3
関係者名簿	1